

文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究 (①企01-11-1/5)

目 的

本研究は、他機関との連携をはかり、文化財の研究情報について、効果的に発信してゆくための手法を研究・開発し、文化財に関する研究情報の蓄積を行うとともに、公開・活用のための手法等について総合的に研究することを目的とする。

成 果

本年度は、国立情報学研究所と研究連携をはかり、研究協議会を重ねながら(6/11、7/28、8/30、9/13、10/21、11/25、12/22、1/31、2/9、2/29、3/26)、東京文化財研究所の文化財情報のアーカイブの一環として、架蔵の准貴重書である美術雑誌『みづゑ』明治期刊行分を対象とした。本資料をデジタル画像化し、併せて、全文テキスト化をはかり、検索手法を駆使しながら、筆名情報等の検討を行い、実名を特定化するとともに、同一外来語の片仮名表記の違いなどを検討し、語彙や固有名詞からの記事検索ができるWeb上での試行版『みづゑ』(創刊号-10号)の公開をめざした。その公開にあたっては、収載記事、図版、執筆者など、より多様な切り口での検索が実現でき、同時に、美術史的な調査・研究成果が蓄積できる書籍アーカイブ、データベースであることを配慮した。

研究組織

○津田徹英、田中淳、山梨絵美子、二神葉子、塩谷純、綿田稔、小林達朗、江村知子、皿井舞、中村節子、橘川英規、井上さやか、中村明子、城野誠治、鳥光美佳子(以上、企画情報部)、丸川雄三、中村佳史(以上、客員研究員)



Web版『みづゑ』の表紙